

令和4年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

資料編

令和5年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書 資料編

【目次】

I	1年間の活動実績	1
	1. 「学生による授業評価」の検討	1
	2. 学生・教職員FD活動交流会の学生メンバーシップ	2
	3. FD活動に関するウェブサイト更新	3
	4. 授業評価実施	16
	令和4年度前期「学生による授業評価」実施結果	16
	令和4年度後期「学生による授業評価」実施結果	17
	令和4年度「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果	18
	5. ベストクラスの選定、公表及び授業公開	19
	ベストクラス選定結果一覧（令和3年度開講科目）	20
	令和4年度（前期）授業公開一覧（令和3年度ベストクラス選定科目）	21
	令和4年度（後期）授業公開一覧（令和4年度ベストクラス選定科目）	22
	授業公開アンケート集計結果	23
	6. アクティブ・ラーニング研究会の実施	29
	第19回アクティブ・ラーニング研究会実施結果	29
	7. 学生・教職員FD活動交流会の実施	32
	学生・教職員FD活動交流会実施結果	32
	8. 「いつでもどこでもFD」制度の導入	40
	「いつでもどこでもFD」について	40
	兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進助成金実施要項	41
II	資料	45
	1. 本学におけるFDの定義について	45
	2. 兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	46
	3. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	47
	4. 授業公開の実施に関する申合せ	50
	5. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	51
	6. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(令和4年度)	52

学生による授業評価に関する調査（意見交換会）について

○全国国立教育系大学に対して、学生による授業評価に関する調査（意見交換会）を、オンライン形式により実施した。

実施大学（実施日）：

宮城教育大学（6/1）、鳴門教育大学（6/3）、福岡教育大学（6/6）、
愛知教育大学（6/9）、上越教育大学（6/28）、東京学芸大学（7/12）、
北海道教育大学（7/27）、奈良教育大学（8/4）、大阪教育大学（8/30）
※京都教育大学については未実施

○調査事項

- ①実施方法（Web 方式、マークカード方式（紙媒体等）、教務システム（LMS）の機能を活用、その他）
- ②記名又は無記名
- ③学期（全 15 回）の途中での授業評価（中間評価）
- ④授業評価の項目
- ⑤評価結果の活用方法
- ⑥回答率を高めるための取組・工夫
- ⑦検討課題
- ⑧その他 F D 推進体制など

○本意見交換会の内容については、本学の授業評価項目の検討資料や研究等に使用すること、また、論文等にまとめる可能性があることについて、全実施大学に説明を行い、了承を得た。なお、論文等にまとめる際には、事前に内容を一読いただくこととしている。

○本意見交換会の内容を踏まえ、引き続き、授業評価にかかる評価項目等の見直しについて、検討を行う。

本学で学びたい方へ

在学生の方へ

自治体・企業の方へ

修了生・卒業の方へ

My HYOKYO

入試情報

大学紹介

大学院コース紹介

キャンパスライフ

国際交流

TOP > トピックス > 学生・教職員F D活動交流会（第2回）を開催しました

カテゴリ別

年度別アーカイブ

2022年7月19日掲載

学生・教職員F D活動交流会（第2回）を開催しました

7月6日（水）、学生・教職員F D活動交流会（第2回）を開催しました。

学生・教職員F D活動交流会は、「教職協働」と「学生参画」を具現化する、学生と教職員がF Dについて公式に協議する場として、F D推進委員会のもとに設置されたものです。

今回の交流会では、はじめに、今年度から学生メンバーの呼称を「学生F Dパートナー」としたことに伴う、任命証の交付式を行いました。任命証は、大学院生20人、学部生13人に対して交付されました。引き続き、令和3年度の大学院及び学部の授業評価結果をもとに、ベストクラス*候補となる授業科目の選定を行いました。今後は、候補科目の担当教員や受講者にインタビューを実施し、その結果等をふまえてベストクラスを決定します。

*優れた授業とはどのようなものか。ベストクラスの選定は、この問いを教職員と学生と一緒に考えていくための仕組みであり、本学の教育の質の向上を目指した取組です。



任命証交付式の様子



選定作業の様子



選定結果の報告



交流会後の記念撮影

チャットで
質問できます



授業と学びを問い続ける Faculty Development



F Dとはファカルティ・ディベロップメントの略で

教育の質保証を目指す取り組みのことです。

兵庫教育大学では「教職協働」「学生参画」を基本に F Dを進めています。

MESSAGE

委員長からのメッセージ

員も、そして学生も一緒になって、この大切な目標にチャレンジする。そのために、「望ましい授業とは」「実りある学びとは」とつねに問い続ける。これが、兵庫教育大学に集う私たちが積み重ねようとする営みにほかなりません。

ここに、その新たな舞台となるウェブサイトができあがりました。日々の授業や学びを支えるヒントが得られるだけでなく、授業や学びへのポジティブな可能性を感じることもできる。そんなウェブサイトに育てていきたいと思っています。

令和4年4月



兵庫教育大学
F D推進委員会委員長
山中 一英



ACTIVITY

本学の F D 活動

授業評価と
評価方法改善



ベストクラスの
選定・公表



アクティブ・
ラーニング
研究会



授業公開



READ MORE



F D 推進委員会



授業改善の支援やFDにかかる調査・研究など、FDに関する
様々な取り組みを企画し実施する組織です。本学のFD活動の
中心です。

[READ MORE](#)

COLLABORATION MEETING

学生・教職員 F D 活動交流会

「教職協働」と「学生参画」を具現化する、学生と教職員がFDに
ついて公式に協議する場です。2014年1月、FD推進委員会の
もとに設置されました。

[READ MORE](#)

F D 活動に関する情報を
キーワードで検索できるようになります！

Teaching and Learning Tips

COMING SOON

[TOP](#) | [本学の F D 活動](#) | [F D 推進委員会](#)

本学の F D 活動



学生・教職員 F D 活動交流会

ベストクラス

学生による授業評価

A L 研究会・授業公開

COLLABORATION MEETING

学生・教職員 F D 活動交流会

学部生、大学院生、FD推進委員会委員、学務課事務職員等から構成される約50名の組織です。大学教育の質向上に向けたあらゆる論点について、率直に語り合う場となっています。本学独自の取り組みである「ベストクラス」の考え方も、この交流会での議論をもとに生まれました。2022年度からは、学生メンバーに「兵庫教育大学学生FDパートナー」という新たな名称が「任命証」とともに付与されることになりました。この取り組みが学生活動の一つとして位置づき、長く根付いていくことを期待してのものです。

令和4年度

+

令和3年度

+

令和2年度

+

令和元年度

+

平成30年度

+

平成29年度

+



BEST CLASS

ベストクラス

「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」という概念の構築に取り組み、2015年度からその選定を開始しました。

なぜベストティーチャーでないのか。授業は教員の努力だけでよいものになりません。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなります。そうだとすれば、教員にのみ焦点があてられるベストティーチャーという表現はふさわしくありません。

なぜ賞でないのか。ベストクラスは、優れた授業のモデルや規準を決めて、それにあてはめて選ぶものではありません。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずです。それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招くことになりかねません。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性があるのです。このように考えたとき、賞という概念はベストクラスになじまないのです。

これら2つの点は、ベストクラスであってベストティーチャー賞でない理由であると同時に、本学の授業に対する基本的な考え方でもあるのです。

令和2年度授業科目ベストクラス

結果を見る ー

令和元年度授業科目ベストクラス

結果を見る ー

+ さらに読み込む

参考資料：[ベストクラスの選定について（H27.3.13 FD推進委員会決定）](#) 



EVALUATION

学生による授業評価

毎年度、学部、大学院のすべての授業科目において、「学生による授業評価」を実施しています。

その結果は担当教員にフィードバックされ、担当教員はそれをもとに自らの授業内容・方法等の改善を行っています。

なお、評価結果は、授業科目ごとに公表（学内限定）しています。

現在実施中の授業評価（令和4年度後期）

現在、**令和4年度後期**の授業評価を実施しています。

在学生の皆様におかれましては、より良い授業にするため、協力をお願いします。

※授業評価に回答するには、固有のログインID及びパスワードが必要です（学務課の委託業者（wqs(あっと)heine.co.jp)よりメールで届きます）。

令和5年3月23日(木)

授業評価に回答する



令和4年度前期

・[授業科目の評価結果 ※学内限定](#)

・[自由記述 主な記述一覧\(学部\) ※学内限定](#) 

・[自由記述 主な記述一覧\(大学院修士課程\) ※学内限定](#) 

・[自由記述 主な記述一覧\(大学院専門職学位課程\) ※学内限定](#) 

・[令和4年度前期「学生による授業評価」の実施について](#) 

・[\[別添資料\]授業評価Webアンケート項目一覧](#) 

過去の授業評価結果について

過去の授業評価結果を閲覧できます。学内のネットワークに接続されたコンピュータ等からアクセスしてください。

過去の授業評価を見る



また、在学生は、授業評価システムから自らの回答並びに履修者全体の結果を、いつでも確認することができます。

※システムにログインするには、固有のログインID及びパスワードが必要です(学務課の委託業者よりメールで届きます)。

[授業評価システムはこちら](#)



その他アンケートについて（学内限定）

「学生による授業評価」についてのアンケート集計結果を閲覧できます。学内のネットワークに接続されたコンピュータ等からアクセスしてください。

[アンケートを見る](#)



ACTIVE LEARNING

アクティブ・ラーニング研究会

令和2年度からSociety5.0×Teacher Education研究会と共催

※詳細は、[教員養成・研修高度化センターCReATE](#)をご確認ください。

第13回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催しました

[記事を読む](#)

第12回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催しました

[記事を読む](#)

第11回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催しました

[記事を読む](#)

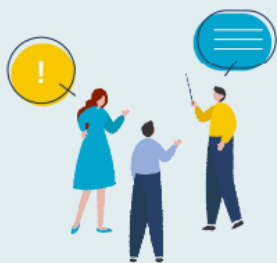
OPEN CLASS

授業公開

教員相互の授業研究の場として、ベストクラスに選定された授業科目を中心に授業公開を実施しています。

また、原則として、授業は全面公開されています。参観を希望する場合には、事前に当該授業担当教員の了承を得てください。

参考資料：[授業公開の実施に関する申合せ（H26.6.学長裁定）](#) 



F D 活動に関する情報を
キーワードで検索できるようになります！

Teaching and Learning Tips

COMING SOON

TOP | 本学の F D 活動 | F D 推進委員会

F D 推進委員会



F D 活動報告書

授業改善の具体的指針

A L 実施状況調査報告

ANNUAL REPORT

F D 推進委員会活動報告書

令和 3 年度 

令和 2 年度 

令和元年度 

+ さらに読み込む





GUIDELINE

授業改善の具体的指針

授業改善の具体的指針 



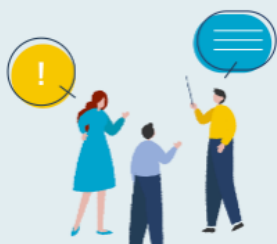
SURVEY REPORT

本学におけるアクティブ・ラーニング実施状況についての調査報告

調査報告 

F D活動に関する情報を

キーワードで検索できるようになります！



Teaching and Learning Tips

COMING SOON



Teaching and Learning Tips



キーワード検索



— 開講年度

- ☐ 令和3年度 ☐ 令和2年度 ☐ 令和1年度 ☐ 平成30年度 ☐ 平成29年度 ☐ 平成28年度 ☐ 平成27年度 ☐ 平成26年度
☐ 平成25年度 ☐ 平成24年度

— 課程

- ☐ 学部 ☐ 修士 ☐ 専門職

この条件で絞り込む



Teaching and Learning Tips

検索結果

4件がマッチしました (うち1件から4件を表示)

No	自由記述	課程	開講年度
1	授業の資料が事前にデータで頂けるので、大変有難かったです。健康に関する情報をデータと根拠に基づいて解説して下さり勉強になりました。	修士	令和1年度
2	詳しいながらも、要点を簡潔にまとめられた資料があり、授業の内容がよく分かりました。	修士	令和1年度
3	理論と現実（実際の子ども）がつなぎ合わさる授業でした。事例や映像も活用してくださったので理解しやすかったです。様々な資料も紹介いただいたので自身の研究にも活用したいと思います。	修士	令和1年度
4	教え、学ぶだけではない関係から教育について考え、そこでうごいている「力」を考えさせられました。資料も多く提示していただき学びが多かったです。	修士	令和1年度

検索画面に戻る

【令和4年度 前期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施時期

7月21日（木）～9月30日（金）まで

2. 実施方法

(1) Web方式

(2) 授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施状況

	令和4年度 (7/21～9/30)	【参考】 令和3年度 (7/28～10/31)
対象科目数 (A)	446	468
実施科目数 (B)	429	444
未実施科目数 (C)	17	24
未実施科目割合 ((C) ÷ (A))	4 %	5 %
実施科目のうち 回答率 50%未満の科目数 (D)	133	114
上記の割合 ((D) ÷ (B))	31 %	26 %
総履修者数 (E)	10,922	10,300
総回答者数 (F)	6,484	6,124
回答率 ((F) ÷ (E))	59 %	59 %

【令和4年度 後期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施時期

12月23日（金）～3月23日（木）まで

2. 実施方法

(1) Web方式

(2) 授業評価の実施手順は、次のとおり。

- ・授業の終盤等相応の機会に、授業担当教員が、学生に授業評価への回答を呼びかける。
- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課の委託業者からメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を、システム上で随時確認することができる。
- ・システムには、各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は、学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・授業評価の結果が、成績に影響することはないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員で分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 実施状況

	令和4年度 (12/23～3/23)	【参考】 令和3年度 (12/23～3/23)
対象科目数 (A)	421	428
履修者数 (B)	10,546	10,085
回答者数 (C)	4,950	3,966
回答率 ((C) ÷ (B))	47 %	39 %

【令和4年度 「教職大学院実習科目の授業評価」実施結果】

1. 実施時期

1月19日（木）～3月10日（金）まで

2. 実施方法

(1) Webフォームによるアンケート方式

(2) 教育実践高度化専攻の学生を対象にMicrosoft Formsのウェブアンケート形式により実施する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の実習への取組や理解度を把握し、実習の改善を行うために実施するものであること。
- ・回答は一括で統計的に処理され、回答が成績に影響することは全くないので、実習に参加して感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、コースにフィードバックし、実習科目の改善に活かし、公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

	令和4年度 (1/19～3/10)	【参考】 令和3年度 (1/23～3/23)
対象科目数（A）	27	21
履修者数（E）	166	153
回答者数（F）	64	93
回答率（(F) ÷ (E)）	39 %	61 %

5. ベストクラスの選定、公表及び授業公開

ベストクラスの選定については、令和3年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、10月開催の研究科教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトを選定理由書を添えて公表した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員がFDについて公式に協議する「学生・教職員FD活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員FD活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それをFD推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から見合わせていたベストクラスの授業公開を、2年ぶりに開催し、教員間の相互研修の場を設けた。前期は令和3年度ベストクラス選定科目から2科目、後期は令和4年度ベストクラス選定科目から1科目の授業公開を行った。

また、後期の1科目については、第19回アクティブ・ラーニング研究会として、授業公開の後、授業研究会を行い参加者で意見交換を行った。

ベストクラス選定結果一覧（令和３年度開講科目）

令和４年９月２８日 第３回ＦＤ推進委員会

課程	科目名称	履修年次	科目区分	受講者数	R3年度 開設状況
学部	クラスセミナーⅢ（Ｋクラス）	2	教養科目群／基礎的アカデミック能力科目	14	前期 金 3
	初等体育（②クラス）	1	教育実践・リフレクション科目群／初等教科内容科目	84	前期 月 2
	幼年教育表現論	4	専修専門科目群／幼年教育専門科目／幼年教育系コース	24	後期 木 2
	教育情報メディア実習（実地教育Ⅴ）（①クラス）	1	教育実践・リフレクション科目群／実地教育科目	56	後期 火 2
大学院 （修士）	かかわりの発達心理学（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／専門領域科目群	23	前期 木 3
	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション	1・2	専攻科目／専門科目／特別支援教育を多面的に理解する科目群	23	前期 木 2
	食育の考え方と進め方（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／専門領域科目群	33	前期 月 2
	教えと学びの哲学（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／専門領域科目群	10	後期 木 2
	子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）	1・2	専攻科目／専門科目／広領域科目群	42	後期 木 2
大学院 （専門職）	包括的児童生徒支援に関する事例研究（夜間クラス）	1	共通基礎科目	6	前期 木 7. 一部集中
	教員のための学校組織マネジメントの実践演習（昼間（①）クラス）	1	共通基礎科目	39	前期 月 1
	教職員職能開発と研修プログラムの開発（夜間クラス）	1・2	専門科目（他コース）	5	後期 金 6

令和4年度（前期）授業公開一覧（令和3年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和2年度 担当教員	履修年次	科目区分	令和4年度			
						受講者数	教室 （実施方法）	開講状況	授業公開 日時 [担当教員]
修士	特別支援教育リーダーのための創発的 コミュニケーション	講義・演習	宇野 宏幸 岡村 章司 石橋由紀子	1	専攻科目／特別支援教育を多面的 に理解する科目群	17	共通講義棟 204 （対面とオンライン （同期型・非同期型）の 併用）	前期 木2	6月16日（木） 2限 [宇野宏幸] 7月14日（木） 2限 [岡村章司]
	障害者福祉論	講義	石倉 健二	1	専攻科目／特別支援教育の理論と 実践を学ぶ科目群	29	共通講義棟 104 （対面とオンライン （同期型・非同期型）の 併用）	前期 火5	7月19日（火） 5限

令和4年度（後期）授業公開一覧（令和4年度ベストクラス選定科目）

課程	科目名称	授業形態	令和4年度 担当教員	履修年次	科目区分	令和4年度			
						受講者数	教室 (実施方法)	開講状況	授業公開 日時
修士	子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）	講義	秋光 恵子	1・2	専攻科目／専門科目／広領域科目 群	35	共通講義棟 113 (対面とオンライン (同期型・非同期型)の 併用)	後期 木2	12月15日(木) 2限

授業公開アンケート集計結果 (特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション)

1. 実施状況

日 時：令和4年6月16日（木） 10：40～12：10

場 所：共通講義棟204

参加者数：10名（教員5名 事務職員5名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	4 人	1 人
②参考になった	0 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人

理由をお書きください。（原文どおり）

【たいへん参考になった】

①授業のコンセプトが明確だと感じた。準備が万全ですばらしいです。特別支援教育にどのようにつながるのかな…と思うところがありますが、その思考の固さをほぐすことに意義があるのだらうと考えました。

GWの時間に宇野先生から意図やしかけを伺い、たいへん勉強になりました。

学生さんが楽しく過ごしておられ、私もリラックスして見学できました。

②対話主体性が生じる下準備の大切さ。細やかな配慮など具体的にお話をうかがうことができました。ワークでの自由なやりとり、雰囲気からも担当教員の「がんばり」がみてとれました。ありがとうございました。

③テーマ設定、グループワークの構成、授業のねらいや工夫があらゆるところにあり、とても深い学びになりました。ありがとうございました。

④協働性（コミュニケーション能力）を向上させるワークショップ型授業の具体的意識とそれを支える理論（資料）を示してもらえたため。

⑤創発的コミュニケーションの重要性がよく理解できた。グループワークでのアイデア出しが多く、問いが生まれ、いいものになっていくように感じた。宇野先生の印象が非常にいいです。

3. 授業公開についてのご意見やご要望等をお書きください。

- ①資料等準備していただきありがとうございました。教員が授業をどのように計画したか、工夫したかなども事前に教えてもらえるとよりいいかと思いました。
- ②授業公開とは関係ないのですが、各教室のプロジェクターが受講生から見えにくいと思うことが多いです。スクリーンサイズ、コントラスト、照明の位置、暗幕など…みやすくわかりやすい教室環境を整えていけるとよいなと思います。設備等が更新される際には、「みやすさ」も検討いただけたらと考えます。
- ③資料をいただけてとても参考になりました。今後とも宜しくお願い致します。
- ④せっかくすばらしい実践がされているのだから、もっと教員（/学生）の参加が得られたらなあと思う。
- ⑤ベストクラスのよさは、大学の先生だけでなく、その授業を受ける学生の力が大きいと感じました。多くの学生、教職員が見学できる、参加しやすい仕組み（ライブ配信など）を考えてみていいかもです。

授業公開アンケート集計結果 (特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション)

1. 実施状況

日 時：令和4年7月14日（木） 10：40～12：10

場 所：共通講義棟204

参加者数：11名（教員8名 事務職員3名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	4 人	1 人
②参考になった	2 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①・日常の業務にあてはまるが多かったので、たいへん参考になりました。
 - ・ほぼ全員が発言できる雰囲気がある授業でした。
 - ・各グループの発表後、学生の質疑応答も良かったが、必ず授業担当教員の助言等をしてくれるので、非常に良い発表になるように思える。
- ②・「自分自身が何気なくやっていることを言語化できた」という授業。おそらく学生も身近なテーマで具体的に考え、抽象化するプロセスを GW 等でやり、質疑応答で更に多様な視点からの意見が得られたと感じているだろう。
 - ・岡村先生の特長がよく出て面白かった。（コンサルタントのモデル的存在）
 - ・この單元もうまく構成されている。テーマもモチベーションが高い（実際に求められる）もの。
 - ・Teams をうまく活用している。
- ③「対話」というキーワードのもとで、岡村先生が対話する姿勢を示しているのが印象的でした。岡村先生の鋭い突っ込みも、対話のアクセントになっていた気がします。学生間の質疑応答が積極的に活発に行われていました。最終アウトプットの前に、とりあえずのものを発表して、コメントをもらおうと、より良い内容になっていくと確認できた。また、学生は発表で手応えを感じているようでした。
- ④他者の授業をみることは、そのこと自体価値があり、学ぶことが多いです。ありがとうございました。

- ⑤授業全体の構成から、学生への言葉かけまで、たいへん参考になりました。ありがとうございました。

【参考になった】

- ①学生参加型の授業の一例として参考になった。小グループに分けての話し合いと全体会での発表が自主的に学ぶ意欲を高めていると感じた。教員側も、学生の発表の中から、新たな気づきを得られる可能性がある。質疑応答も活発で、共通の問題で多角的な答えがある問いであることが、ポイントであろう。
- ②コンサルテーションの重要要素を学習者同士の対話によって抽出するというタイプの授業は初めて参観して新鮮でした。コンサルテーションのテキストの解説理解以上の効果（学習の定着）がありそうです。

3. 授業公開についての意見や要望等 （原文どおり）

- ①リモート公開も含めてすると、多くの方に見ていただけるのではないかと思います。
- ②一授業だけではなく、数回ある流れも示してもらえてよく分かりました。
- ③重要要因の抽出後、その要因が現場で実行できているかどうかのチェック（事例検討）が続編として必要なのではないのでしょうか。

授業公開アンケート集計結果 (障害者福祉論)

1. 実施状況

日 時：令和4年7月19日（火） 16：30～18：00

場 所：共通講義棟104

参加者数：6名（教員3名 事務職員3名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	2人	1人
②参考になった	1人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①・テキストを使いながら、必要な支援を使えるようになることを目指すという目標が明確でとてもわかりやすかったです。
 - ・実際にあった事例をモデルとして、それぞれの学生が担当する役職をもっているため、他のグループの発表に対しても積極的な意見交換ができていると感じました。非同期の「事後課題シート」がどのようなものかについてもまたお伺いしたいと思いました。
- ②・事例を用いた授業展開の可能性を感じました。
 - ・提示された事例にはいくつもの論点が埋め込まれ、課題となる事例づくりがカギを握るのだと思いました。
- ③・日常、考えられる事例であったため非常に参考になった。
 - ・学生と大学教員でつくりあげられているように思える授業であった。
 - ・30人以上の授業であるにもかかわらず、教員も含め全員参加の印象がある授業であった。

【参考になった】

- ①障害者福祉に関して、仮想の一族の福祉サービスをどのように行うかについて、受講者と教員が積極的に意見交換を行う授業形態が参考になった。

3. 授業公開についての意見や要望等 (原文どおり)

- ①貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ②3つの授業を見ましたが、全員で授業をつくっている感は共通してあった。発表後の大学教員のアドバイス等のコメントが、非常に大事と思えた。励みになっている。

第 19 回アクティブ・ラーニング研究会の実施結果について

R4. 12. 15

目 的 このたびの研究会は、令和 4 年度のベストクラスに選定された授業の 1 つを公開することによって、授業改善のアイデアや手法等の情報を共有し、本学における教員相互の「授業研究」の場として、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進することを目的とした。

日時・内容 令和 4 年 12 月 15 日（木） 於：共通講義棟 1 1 3 教室及び Zoom

①授業公開（授業者：学校心理・学校健康教育・発達支援コース 秋光 恵子 教授）
10 時 40 分～12 時 10 分「子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）」
※履修者 35 名

②授業研究会（司会進行：FD推進委員会委員長 山中 一英 教授）
12 時 15 分～12 時 35 分（学生・教職員との意見交換）

参 加 者 数 7 名
(内訳) 教 員 4 名
事務職員 3 名

第 19 回アクティブ・ラーニング研究会 アンケート集計結果

1. 実施状況

日時：令和4年12月15日（木）10：40～12：35

授業公開「子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）」

10：40～12：10

授業研究会

12：15～12：35

開催場所・開催方法：共通講義棟113教室、Zoom

参加者数：7名（教員4名、事務職員3名）（受講学生除く）

2. 公開授業について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	3人	0人
②参考になった	0人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ①教員でなくてもごく一般的な興味関心が湧くような導入からより具体的な理論ベースのお話まで盛り沢山で飽きることなく学習することができたから。
- ②他の授業を観させていただく機会がほとんどないため、とても勉強になりました。授業の冒頭でFormsで意見を集約し、授業時間中に公開するのは、学生が考える時間、他者の考え方を知ることができる時間を確保でき、素敵だと思いました。ぜひ、自身の授業でも活用させていただきたいと思います。
- ③大学生や大学生のAcademic Motivationを上げるための授業の工夫や研究をしてきましたが、他の先生の授業で違う観点から考える機会を得ました。

3. 授業研究会について

	教 員	事務職員
①たいへん参考になった	2 人	0 人
②参考になった	0 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人
⑤参加しなかった（授業公開のみ参加した）	1 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 （原文どおり）

【たいへん参考になった】

- ・対面とオンラインの併用型の授業であったが、そのどちらにも配慮が感じられた（臨場感あふれる展開であった）。

4. アクティブ・ラーニング研究会についての意見や要望等 （原文どおり）

- ①もう少し学習者同士が話し合える場が設定されていればより良い研究会になったのではないのでしょうか。
- ②ハイブリッド形式の授業を初めて参観させていただきました。

第1回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和4年5月31日（火） 16：30～17：30

《会議形式》 zoomによる開催

《参加者》	33名	（内訳）	大学院学生	16名
			学部学生	8名
			教員	7名
			事務職員	2名

《実施内容》

1. 座長から、配付資料に基づき、学生・教職員FD活動交流会、学生FDパートナーの任命証交付式及びベストクラスの趣旨等について説明が行われ、引き続き、ベストクラス選定にかかる具体的手順等について説明が行われた。
2. 上記説明についての質疑応答が行われた。
3. 次回以降の内容について確認及び今年度の活動への協力依頼が行われた。
 - ① 7月6日（水）5限に第2回交流会を対面形式で開催の上、学生FDパートナーの任命証交付式及びベストクラス候補の選定作業を実施すること。
 - ② 第2回交流会終了後から7月末までにベストクラス候補にインタビューを実施すること。
 - ② 8月末までに「ベストクラス候補選定理由書」を作成すること。
 - ③ 9月中に第3回学生・教職員FD活動交流会を開催し、ベストクラス候補を選定すること。

第2回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和4年7月6日（水）16：30～18：00

総合研究棟3階 大会議室

《会議形式》 ミーティング

《参加者》	33名	（内訳）	大学院学生	15名
			学部学生	6名
			教員	8名
			事務職員	4名

《実施内容》

1. 座長から、任命証交付式について説明が行われ、引き続き、学生FDパートナーの任命証交付式が行われた。
2. 座長から、配付資料2、3に基づき、ベストクラス選定にかかる具体的手順について説明が行われ、引き続き、配付資料4、5に基づき、科目数・コメント数及び選定作業の班分けについて説明が行われた。
3. 配付資料2～12、参考に基づき、課程別にグループ毎の選定作業が行われた。
4. 各グループ（A班～F班）のベストクラス候補選定結果の共有が行われた。
5. 次回の内容について確認が行われた。
 - ① 7・8月中を目処にインタビュー等を実施すること（日程等については各班で調整する）。
 - ② 8月末までにベストクラス候補選定理由書を作成すること。
 - ③ 9月中に第3回学生・教職員FD活動交流会を開催し、ベストクラス候補を選定すること。

第3回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和4年9月20日（火） 14:50～16:20

《会議形式》 Zoomにより開催

《参加者》	27名	（内訳）	大学院学生	13名
			学部学生	3名
			教員	7名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 配付資料1-1、-2に基づき、ベストクラス選定にかかる具体的手順について、確認を行った。
2. 配付資料2-1、-2に基づき、ベストクラス候補科目について検討を行った結果、12科目をベストクラス選定候補として、9月28日開催のFD推進委員会に推薦することとなった。
3. ベストクラスの選定過程等について、意見交換を行った。

＜主な意見＞

- ・インタビューの実施時期が、試験や中間報告など学生にとって忙しい時期と重なっている。そのため、主体的に活動できるメンバーが少なくなっているのではないかと。
- ・班のメンバーと交流できるような場を、交流会の中で設けたほうがよいのではないかと。また、その中でインタビュー実施にあたっての役割分担を行うことにより、より主体的な活動を促すことができるのではないかと。
- ・第2回に行ったベストクラスの選定作業について、作業時間が短いのではないかと。
- ・参加者の意欲に差があるのではないかと。インタビューや文書の提出など、負担も多い。学生の選出方法を検討するべきではないかと。
- ・Teamsを用いて活動を行っていくことについて、交流会の中でアナウンスをした方がよいのではないかと。

4. 次回開催日については、11月中を目処に、後日事務局から日程照会を行う。

第4回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和4年12月5日（月）14：50～15：30

《会議形式》 Teams により開催

《参加者》	20名	(内訳)	大学院学生	11名
			学部学生	0名
			教員	6名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 座長から、資料1に基づき、来年度以降のベストクラスの選定過程等を一部変更することについて説明が行われた。
2. 座長及び須田副学長から、資料2に基づき、令和5年2月22日（水）3限に開催を予定している理論と実践の融合に係るシンポジウムについて、学生FDパートナーより指定討論者を選出いただきたい旨、依頼があったことの説明が行われた。引き続き、ご協力いただける方については、資料2に掲載しているFormsのURLまたはQRコードよりご連絡いただきたい旨、説明が行われた。なお、選出人数は、学部・修士・専門職から各1名であるため、必要に応じて人数の調整や個別の依頼を行う可能性があることについて、併せて説明が行われた。

3. 座長から、資料3に基づき、学生による授業評価の実施状況について説明が行われた後、授業評価における回答率を高めるための取り組みについて、意見交換が行われた。

＜主な意見＞

- ・授業の最後に、回答する時間を取るとよいのではないかな。
- ・回答する科目数について、履修する科目数が多いと、必然的に回答する量が多くなるため大変である。特に学部生は履修する科目数が多いため、回答に時間がかかってしまい大変なのではないかな。
- ・質問の項目数が多いため、回答に時間がかかってしまう。一度に回答することが難しいため、回答を後回しにしてしまい、そのまま忘れてしまうのではないかな。
- ・授業履修後の授業評価に加えて、授業履修中の授業評価（中間評価）を行ってはどうか。双方向の授業改善に繋がるという実感が芽生え、回答率をあげることができるのではないかな。
- ・未回答の人にものみ、リマインドメールを送ることはできないかな。
- ・自由記述について、一文でもよいので必須の回答項目としてはどうか。
- ・ウェブでのアンケート方式に変更したことで、自由記述の回答時間を十分に確保できるようになり、回答しやすくなった。ウェブ方式の良さを上手に取り入れながら、回答率を向上する方策を模索するとよいのではないかな。
- ・履修登録前に授業評価をしないとイケないようなシステムや、成績を見るには授業評価をしないとイケないようなシステムにすることで、確実に回答率をあげることができるのではないかな。一方で、強制とにならないよう回答したくないといった選択肢を作るとよいのではないかな。
- ・授業評価を少しでも成績評価に加えてはどうか。

4. 次回の交流会は2月下旬頃の開催を予定しており、別途、日程調整のうえ開催する。

第5回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時》

令和5年2月20日（月） 10：40～11：25

《会議形式》 Teams により開催

《参加者》	20名	(内訳)	大学院学生	9名
			学部学生	1名
			教員	6名
			事務職員	4名

《実施内容》

1. 学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について

座長から、画面共有資料、参考1に基づき、以下の点について、意見交換が行われた。

①FDパートナーとして活動に参加してみて思ったこと

（よかったこと、学びになったこと、取り入れてほしいこと、改善したほうがよいことなど）

②来年度の交流会で論点にしてはどうかと思うこと

③本学の教育全般について思うこと

<主な意見>

- ・①について、教員と直接話すことができ、どのようなスタイルで授業に臨んでいるのか、また、授業で何を伝えたいのか等について学ぶことが出来た。
- ②、③について、学生が意見をまとめ具体的に分かりやすく説明する力を身に付けることを目的に、来年度は、プレゼンテーションの方法や授業の方法（対面・ハイフレックス・オンライン）等について考えてみるとよいのではないか。

- ・①について、先生方の授業における様々な仕掛けを聞くことができ、現職である私たちにとって後々活かすことが出来る、良い学びの機会となった。また、教員へのインタビューがとても良かった。ハイフレックスにより実施することで、多くの人が参加できるのではないかと。FD活動は楽しい活動であると広く認識してもらいたい。そのためには、教員への発信の仕方もあると考えていく必要があると考える。外部の方に、このような素敵な活動をしているということを発信していくことで、今後の学生の就職にも繋がるのではないかと。また、授業が苦手だと感じている教員に対しても、なんらかの発信ができるとよりよいのではないかと。
- ・①について、インタビューを通して、教員が様々な手法を授業に取り入れているということを知ることができた。特に、オンライン授業ではこのような工夫をしている、またこのような課題があるといったことを知ることができ、自分自身も今後、教員になった際に、取り入れていきたいと感じた。
 ②について、オンラインから対面になる授業が増えると考えられるが、授業評価はどのように変化するかと、またその変化の原因は何であるかを検討する必要があるのではないかと。
 ③について、学部の教育課程が教員養成に偏りすぎているのではないかと。例えば、インターンシップは学校以外の職を体験すると良い経験になるのではないかと。
- ・①について、様々な立場の人たちと交流しながら、授業のあり方等について考えることができ、学びの多いものであった。また、インタビューをする人が1名であり、負担が大きいのではないかと感じた。オンラインを取り入れるなど工夫する必要があるのではないかと。
 ②について、対面・オンライン・ハイフレックス等の各授業方法における、評価の観点を考えていく必要がある。また、どのような授業がベストクラスとなっているのか、そしてそれを教員に対してだけでなく学生に対しても、どのように広げていくのかについて検討することが重要なのではないかと。
- ・①について、昨年度の授業に対してインタビューを行うため、即時性がない。そのため、FD活動が報告としての活動に留まってしまっているのではないかと。そこで、今現在、自分自身が受けている授業に対して「このような授業にしてはどうでしょうか」とFD活動を反映することができる仕組みにするとよいのではないかと。今に働きかけるような仕組みがあると面白いと思う。また、学修者側の視点と、将来、教師として教壇に立つ側の視点の両方を、FD活動に組み込む必要があるのではないかと。

- ・①について、FD活動を通して、以前回答した授業評価が、どのように活用されているのかを知ることができた。また、自分自身が受講した授業に対してインタビューを行ったため、どのような思いで先生方が授業を作っているのか、また受講生がどのような思いで受講していたのかを知ることができ、面白かった。一方、インタビューに参加した方が少なかったため、多くの方が参加できるようなシステムがあると、より面白くなるのではと感じた。また、他コースの方や学部生の方と関わることができ、楽しかった。しかし、対面での活動が少なかったため、横のつながりが薄くなり、意見を調整することが難しかった。もう少し横の繋がりが出来るとより良いのではないかな。また、インタビューの実施時期である8月は、学部生にとって、インターンシップや合宿、集中講義等により忙しい時期であり、負担が大きいように感じた。
- ・①について、インタビューを通して、教員が様々な状況に対応しながら授業を行っていることを知った。複数人でインタビューできると良かったと思う。
- ・交流会の日程調整について、いくつか候補日をあげて各学生に予定を連絡してもらい、一番参加者が多い日に交流会を開催するとよいのではないかな。

2. 令和5年度学生FDパートナー募集について

座長から、資料1に基づき、来年度の学生FDパートナーの募集ポスターについて説明が行われた。引き続き、前の議題においていただいた感想等を「参加した学生の声」として、個人を特定できない形にした上で掲載したい旨、説明が行われた。

また、座長より、学生FDパートナーの募集ポスターやアクティブラーニング研究会の開催ポスター等について、学生が参画して作成いただくことで、学生の発表の場にすることができるのではないかな、といった提案が行われた。

「いつでもどこでも FD」について

1. 「いつでもどこでも FD」の目的

本学に在籍する教員が主となって自律的に行う FD 活動を「いつでもどこでも FD」と呼称し、当該諸活動を FD 推進委員会が支援することで、野火的に FD 活動が展開する風土を学内に醸成し、教育の質保証に寄与することを目的とする。

2. 対象となる FD 活動

- (1) 本学における FD の定義「本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組」に適合するもの。
- (2) 本学に在籍する教員が実施する FD 活動全般を対象とし、規模、対象者、実施場所（学内・学外）及び実施方法（対面・オンライン）は問わない。
〔FD 活動の例示〕講演会、研究会、読書会、授業検討会等

3. 活動に対する主な支援内容

- (1) 開催案内に係る本学ウェブサイトへの掲載や案内メールの通知（学外宛は除く）
- (2) 助成金の給付（別に定める「FD 推進助成金実施要項」のとおり）
- (3) 講師依頼に係る公文書作成及び謝金や旅費の支払い手続き
- (4) 消耗品の購入手続き
- (5) 学外において実施される FD 活動への参加に伴い、必要となる旅費等の支給
- (6) その他

4. 活動の実施フロー

- (1) 教員は、「企画書兼助成金申請書」（FD 推進助成金実施要項・別記様式 1）を FD 推進委員会委員長（以下「委員長」という。）に提出する。
- (2) 委員長及び副委員長は、提出された申請書の内容について確認を行う。
なお、委員長は、FD 助成金の給付決定について、申請者に通知する。
- (3) 学務課は、申請のあった支援を行う。
- (4) 教員（申請者）は、FD 活動の終了後、「報告書」（FD 推進助成金実施要項・別記様式 2）を委員長に提出する。
- (5) 学務課は、提出された報告書を本学 FD ウェブサイトに掲載する。
- (6) 委員長は、必要に応じて、特筆する FD 活動等を FD 推進委員会において報告する。

以上

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント
推進助成金実施要項

(趣旨)

第 1 条 この要項は、兵庫教育大学(以下「本学」という。)に在籍する教員が実施するファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動において必要となる経費に対し助成金(以下「FD 助成金」という。)を給付することにより、野火的に FD 活動が展開する風土を醸成し、教育の質保証に寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この要項において実施する FD 活動は、「いつでもどこでも FD」と呼称するものとする。

(申請資格)

第 3 条 FD 助成金を申請できる者は、本学に在籍する教員（特任教員，特命教員，特定教員，研究員及び附属学校教員を除く。）とする。

(助成金額)

第 4 条 FD 助成金は、本学における FD 活動のため必要とする謝金，旅費及び消耗品の購入等に対して支出するものとする。

2 FD 助成金の給付限度額は、申請 1 件につき 5 万円とする。ただし、FD 推進委員会委員長(以下「委員長」という。)の許可を得たときは、この限りではない。

(申請)

第 5 条 FD 助成金の給付を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、原則として実施日の 2 月前までに、企画書兼申請書(別記様式 1)を委員長に提出しなければならない。

2 申請者は、個人又は複数人とすることができる。

(決定)

第 6 条 FD 助成金の給付を受ける者(以下「受給者」という。)の決定は、委員長及び副委員長が行う。

2 委員長は、前項の規定により、受給者を決定したときは、申請者に通知する。

(中止)

第7条 受給者が、やむを得ない理由により申請したFD活動を中止するときは、あらかじめその理由を付して委員長に申し出なければならない。

2 委員長は、前項の規定による中止を申し出た受給者に、既に支出したFD助成金の全部又は一部の返還を求めることができる。

(報告)

第8条 受給者は、FD助成金の給付を受けて行ったFD活動が完了したときは、速やかに、報告書(別記様式2)を委員長に提出しなければならない。

2 前項の報告ができないときは、FD助成金の返還を求めることがある。

(特別な事情による給付停止)

第9条 委員長は、予算等の状況によりFD助成金の減額又は給付の停止を行うことができる。

(事務)

第10条 FD助成金に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第11条 この要項により難い場合は、委員長の判断により措置をする。

附 則

この要項は、令和5年4月1日から施行する。

年 月 日

FD 推進委員会委員長 様

FD 企画書兼助成金申請書

所属・氏名

以下のとおり，FD 活動を企画しましたので申請します。

題目			
開催日時			
開催方法・場所			
参加対象者			
主催者			
趣旨			
内容			
周知希望 の有無	有 ・ 無	希望する 周知方法	大学ウェブサイト ・ メール（学外宛は除く）
費用見込 ※FD 助成金を申請 する場合のみ記入	金額（見込） _____ 円 内訳：		
備考			

(注意事項)

- 1 実施要項，リーフレット等の関連資料がある場合は，添付してください。
- 2 申請書は，実施日の 2 月前までに提出してください。
- 3 開催に係る業務（会場の設営，当日の運営等）は，主催者にて実施してください。

○年度 いつでもどこでもFD 報告書

「 タ イ ト ル 」

開催日時：20○○年○○月○○日（○） ○○時○○分～○○時○○分

開催方法：※対面で開催した場合は場所も記入してください

主 催：

参加人数：○人（教員○人 学生○人 事務職員○人 その他○人）

- ・概要
- ・得られた成果，課題等
- ・実施をふまえた今後のFD活動への意見等

写 真①

※可能な限り掲載をお願いします

写 真②

※可能な限り掲載をお願いします

※実施要項，配付資料，事後アンケート結果等の関連資料がある場合は，添付してください。

※提出いただいた報告書は，そのまま本学ウェブサイト等へ掲載しますので，その旨，お含みおきのうえ，ご作成ください。

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

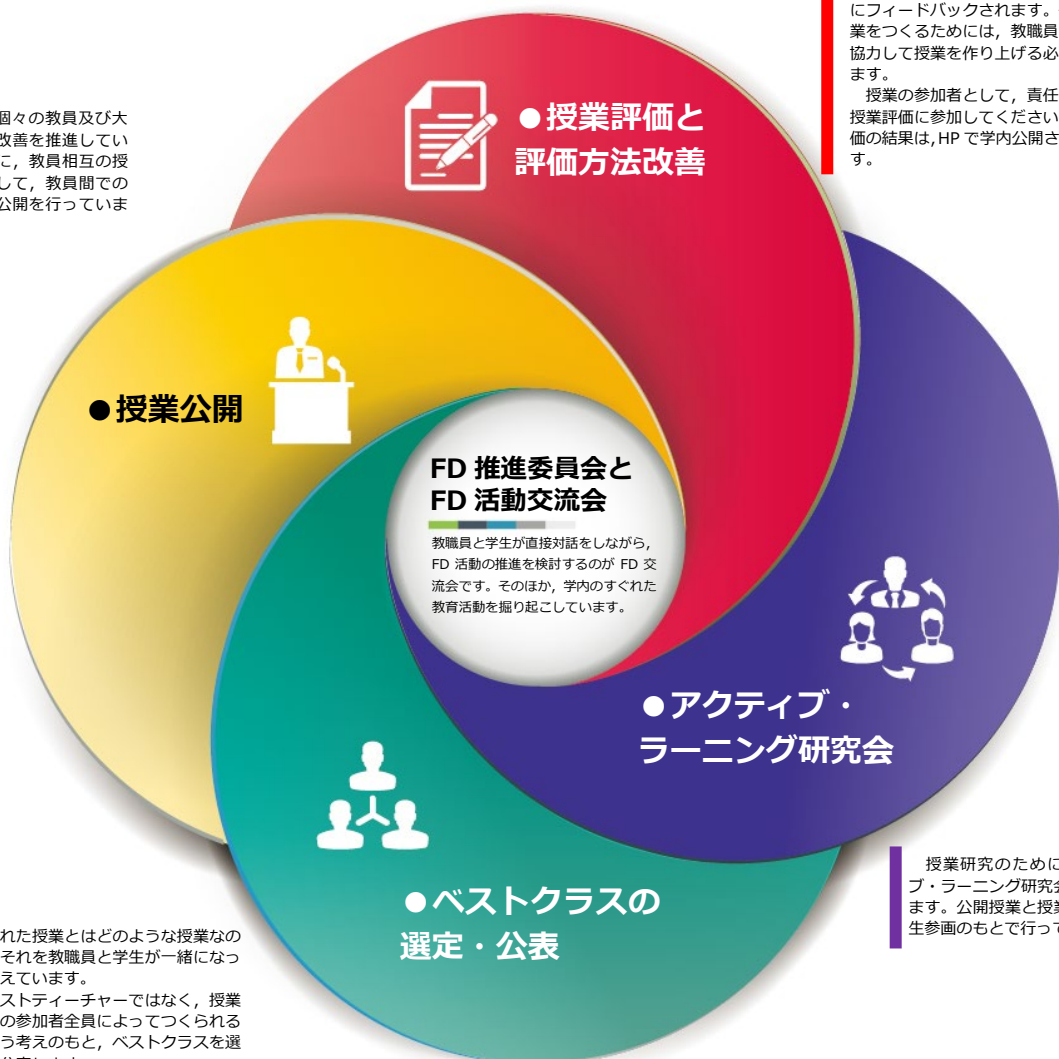
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 17 号)

改正	平成 17 年 3 月 31 日	平成 17 年 9 月 6 日
	平成 18 年 3 月 8 日	平成 18 年 7 月 12 日
	平成 18 年 12 月 6 日	平成 19 年 3 月 14 日
	平成 20 年 1 月 16 日	平成 20 年 3 月 11 日
	平成 23 年 3 月 14 日	平成 24 年 3 月 26 日
	平成 25 年 4 月 2 日	平成 28 年 1 月 13 日
	平成 29 年 3 月 29 日	平成 29 年 6 月 30 日
	平成 31 年 2 月 12 日	令和 2 年 3 月 11 日
	令和 3 年 3 月 26 日	

(設置)

第 1 条 国立大学法人兵庫教育大学(以下「本学」という。)におけるファカルティ・ディベロップメント(教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。)の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人
- (2) FD 推進担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2 人
 - イ 特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1 人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3 人

(4) 学長が指名した者

2 前項第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 2 号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FD に係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他 FD に関すること。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月31日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年9月6日)

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則(平成18年3月8日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年7月12日)

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則(平成18年12月6日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月14日)

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成20年1月16日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 14 日)

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則(平成 24 年 3 月 26 日)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 4 月 2 日)

この規程は、平成 25 年 4 月 2 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 28 年 1 月 13 日)

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成 29 年 3 月 29 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 6 月 30 日)

この規程は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 2 月 12 日)

- 1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に改正前の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき特別支援教育専攻から推薦された委員である者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき同専攻から推薦された委員、教科教育実践開発専攻に所属する者として専攻から推薦された委員である者のうち、芸術系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき人間発達教育専攻に所属する者として専攻から推薦された委員、理数系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき教育実践高度化専攻に所属する者として専攻から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和 2 年 3 月 11 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 26 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

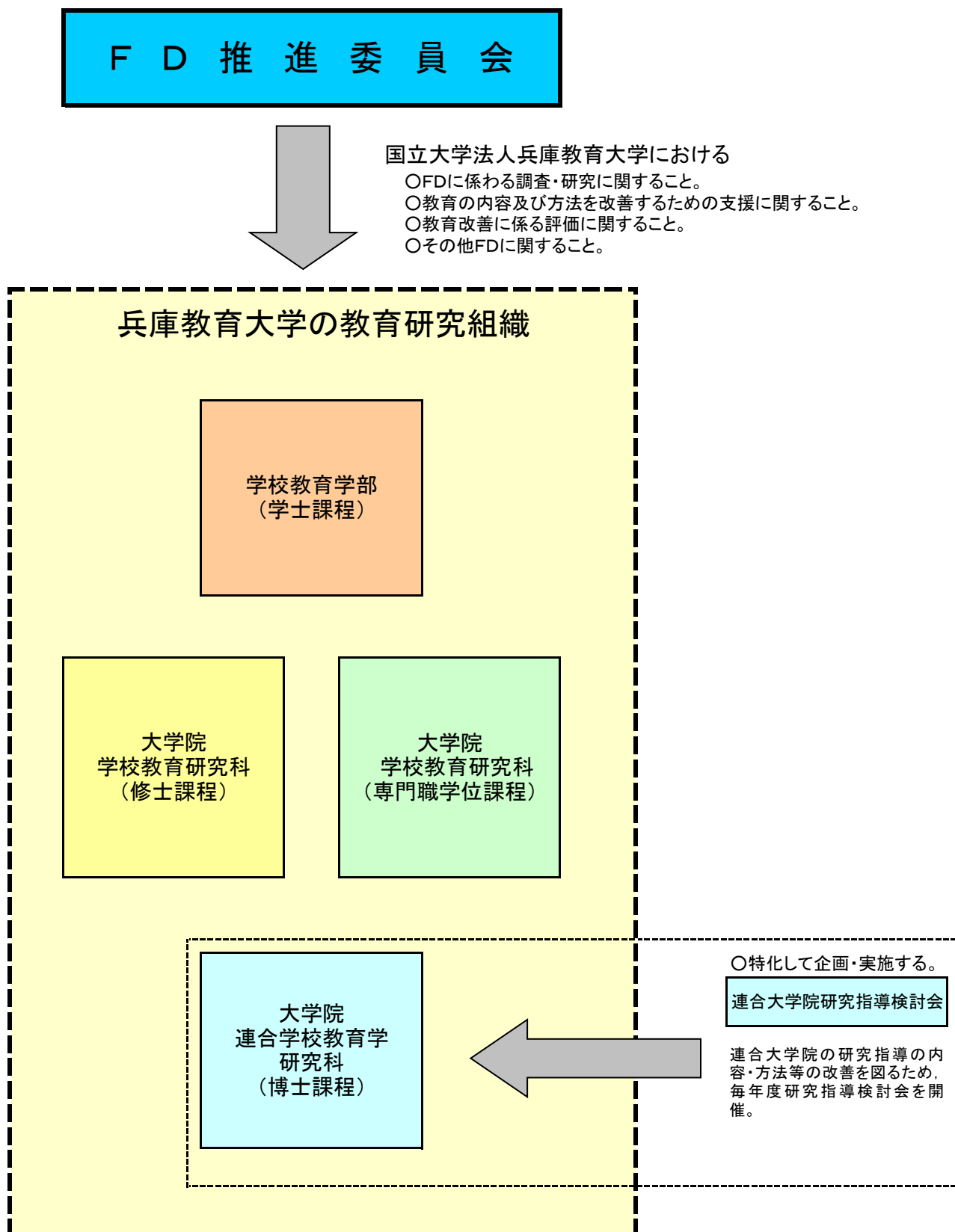
3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

FD活動

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

令和4年4月1日

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	須田 康之	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (FD推進担当)	山中 一英	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教育・発達支援コース	准教授	藤原 和政	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31	第3号委員
人間発達教育専攻 臨床心理学コース	助 教	池田 浩之	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31	〃
特別支援教育専攻 障害科学コース	助 教	内海 友加利	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 言語系教科マネジメントコース	准教授	竹口 智之	R4. 4. 1 ～R5. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 理数系教科マネジメントコース	教 授	庭瀬 敬右	R4. 4. 1 ～R6. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース	教 授	前芝 武史	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31	〃
—	副学長	吉水 裕也	R3. 4. 1 ～R5. 3. 31	第4号委員